



第 84 巻 第 4 号
 年 4 回 発 行
 社会福祉法人 慈生会
 〒165-0022
 東京都中野区江古田 3-15-2
 TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
 振替口座 ベタニアの家
 00170-6-15317

地域とのつながり

関 広宣

児童養護施設ベトレーム学園と乳児院ナザレットの家の合築で建てられたのが二〇一七年十二月。あれから七年と半年が経過しております。入所している半数以上は、旧園舎（現在の駐車場）の建物は知りません。合築したばかりの当初は、卒園生や関係者からは「久しぶりに来たら、学園が移動していた」、「もうベトレーム学園は無くなってしまったの?」という声がありましたが、時が経ち、この場所にナザレットの家と一緒に建っているという事は周知されています。しかし、地域の方々にはベトレーム学園がどう認識されているのか、どう思われているのか。我々は地域の方々に知っていただき、

理解していただくことが必要になります。

施設を知っていただく手段としては、こちらが発信しているホームページやSNSがあり、どのような運営やサービスを提供できているのか、といった部分では、福祉サービス第三者評価の受審結果の公表になります。ベトレーム学園では毎年受審しており令和六年度の結果のなかで、特に良いと思う点とさらなる改善が望まれる点があります。〈特に良いと思う点〉「子どもの最善の利益を踏まえ、多職種が連携を図り、全職員がワンチームとなって、子どもを養育・支援している」「地域と協力体制を構築してつながりを深めるとともに、専門性をいかして地域貢献事業や地域ネットワークの共通課題について取り組んでいる」「施設で

は、子どもが生涯にわたり、健全な食生活を実践できることをめざし、おいしく楽しい食事の提供と食育に力を注いでいる」〈さらなる改善が望まれる点〉「職員の気づき力を促すヒヤリハット報告について、さらなる理解・意識徹底への取組や活用促進に期待したい」「多岐にわたり、整備されたマニュアルを統一した目線で、さらに使いやすいマニュアルとなるよう見直すことが望まれる」「アフターケアを実施する際に、どの職員でも進捗がわかるような、アフターケア計画の様式の作成を期待したい」以上が第三者評価機関からの評価講評になります。これによりベトレーム学園がこれから何を特徴として伸ばしていけたらよいのか、何が課題で、どう改善していけたらよいのかの気づきが得られます。今年度の計画として取り組んでいるところでは、地域の方々への理解ということでは、特に良いと思う点であげられている「地域と協力体制を構築してつながりを深める・・・」とありますが、ベトレーム学園は地域自治会への加入と職員が副会長として参画しています。協力体制の一つとして、毎年の共催行事である納涼祭を七月二十六日に開催しました。数か月前から行事についての協議をし、前日準備から当日開催、翌日片付けと地域の方々と協力して作り上げることができています。この行事を通して地域の方々との達成感と共に、信頼関係を築けていると思います。これからも地域により一層の理解をしていただくために、つながりを深めていきたいと思っています。



【シスターの眼差し勇気武器に夏】

窪田 由佳

厳かな教会。参列者の祝福。響く讃美歌。そんな温かい空気の満ちる場にて、永年表彰を頂いた私の魂は、素直に喜んでいくことを感じました。縁あってベトレヘムの園病院に入職し、ハレの日もドシャブリの日も、魅力的な仲間と共に航海してきたこの二十年は、宝物であり、また次に進むための、スタート地点となりました。ありがとうございます。

(ベトレヘムの園病院 看護部長)

大和 理恵

この度は永年勤続という節目の年に、表彰式を催して頂き誠にありがとうございました。

資格を取得し新卒ではない私を、相談員として採用して頂きました。

そして医療業界のことを知らず、即戦力ではなかった私に、大先輩の相談員が根気強く地(地域)に足をつけて仕事をしていくことを教えてくださいました。

そして長年かけても揺れ幅が広く地盤を固められない私を、支えてくださる上司や事務部始め多くの職員の皆様には感謝申し上げます。

(ベトレヘムの園病院 事務次長)

河野 妃登美

入職して二十年もたってしまったのだなと言うのが素直な感想です。病院機能評価受審の為、パソコンオペレーターとして前看護部長のもとマニュアルの作成などに携わった日々を懐かしく思い出します。病院勤務など初めてで、医学用語が全く分からず、戸惑いながらのスタートでしたがマニュアルを作りながら徐々に理解出来る様になり、多くの事を学ばせて頂きました。これからの初心を忘れずに職場の同僚や病院の為に誠実に努めてまいりたいと思います。ここまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

(ベトレヘムの園病院 主任)



ベタニアの家創立記念ミサ 及び
永年勤続表彰式が行われました
六月二十七日

三上 由美子

この二十年、皆様のご理解と助けを頂きながら勤められたことに感謝いたします。中野から清瀬へと異動もあり、東日本大震災による不自由な時期も経験しました。四年前に主人を亡くして、もう退職してもいいかなと思う時期もありましたが、励まして下さった修道会のシスター方、職場の上司、同僚、家族のおかげでここまで歩みを進めることができました。これからも時代の変化に対応しながら必要とされる職員でありたいと思います。

(聖ヨゼフ老人ホーム 事務長)

永年勤続表彰記念式典にあたって

小島 史之

二〇〇五年の四月にナザレットの家に入職しました。食事を通して子ども達と関わって来ました。当時は全て初めてのことでばかりで大変でしたが、子ども達の笑顔に励まされて働くことが出来ました。二〇二〇年の四月からは聖ヨゼフ老人ホームで高齢者の食事づくりに携わらせて頂いております。利用者の方に「美味しかったよ」、「ありがとう」など言葉をかけてもらうことも嬉しく、やりがいを感じます。

二十年経って思うことは、子ども達、利用者、職場の先輩、同僚の方に支えられての二十年だったと思います。これからの思いを大切に日々の業務を行っていききたいと思います。ありがとうございます。

(聖ヨゼフ老人ホーム 栄養士)

杉山 智和

東京から那須への移住だったので、小さい車で何回か荷物を運び、最後に地元の仲間に見送られつつ、一人東北道将那須に向った夜を思い出します。あれからアツという間の二十年。慈生会で長い付き合いとなった仲間と共に、実り多い日々を過ごさせて頂いている今に心から感謝いたします。これからも那須はもちろん、東京の仲間も含め、少しずつみんなの場所を作り上げていけるのが楽しみです。今後ともよろしくお願いたします。

(マ・メゾン光星 主任)

近藤 英樹

この度は二十年の節目を祝っていただき、誠にありがとうございました。入職当時は、措置費から支援費への転換期。マ・メゾン光星も新しい建物へと変化する時代でした。多くの方を見送る一方、新しい仲間にも支えられ、この日を迎えられました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、皆さんとともに歩み続けたいと思います。

(マ・メゾン光星 リーダー)

理事長講話を通して今のわたしが感じたこと、未来につなげたこと

昨年の講話で受けた「理念」に繋がると思いました。自分にできることは何だろう。どうすれば自分以外の人もやりやすいだろうと考えています。フロジャク神父様の「今必要なことはすぐやりたい」「正しい心をもって仕事をすれば…」という言葉を心に沁みました。ご利用者同士で助け合う姿を見ることも多く、これが本来あるべき姿だと感じます。「神父様の心を受け継ぐ」想うことを大切に他者に寄り添える人でありたいです。(マ・メゾン光星職員)

「正しい心をもって仕事をすれば…」この正しい心をみんなで見守りながらひとつの目標に向かって仕事に取り組むことができれば難しいことものり越えていけるし、嬉しい気持ち共有でき、ひとつのチームになっていける。「途中で嫌になっても飛び出しても、また帰ってくれば温かく迎える」この神父様の行動が今の自分には必要で、どのような時にも相手を想いながら根気強く受け止め、伝え、居心地の良い場所にできればと思います。(マ・メゾン光星職員)

「正しい心をもって仕事をすれば…」「救われた人が途中で嫌になっても飛び出しても、また帰ってくれば温かく迎える」慈生会の誓い、理念を正

しく理解し、子どものことを考えてやるべきことをやる。思いやる心を忘れず、職員としても、1人の人としても愛のある人でありたい。ときに自分の気持ちを見失いそうな時もあるけれど、自分はどうしたい？どう伝えたい？という自分の心の声にも耳を傾けていきたい。

(ベトレヘム学園職員)

「善いサマリア人」の問い「私にとって隣人とは誰か」「私は誰の隣人になったか」二つの違いも学びになりました。誰かと接する際に「自分軸」か「他人軸」か。自分を大切にすることも含めて誰かを大切にすること。

今は追はぎにあった人を助けているが、状況が違えばそこに立っているのは自分かも知れない。このような考え方を持つと、より誰かのために行動することができるようだと学びました。(ベトレヘム学園職員)



新しい取り組みの中に存続するもの

池谷 恵子

「新」繋がりで、施設長になり初めて瑠璃草を書かせていただきます。二〇二五年、団塊の世代の方が全員後期高齢者になる節目の年、そして二〇四〇年高齢者の人口の伸びは落ちますが、その間に少子化は進み深刻な働き手不足に直面、これにどう向き合うか・・・厚生労働省は人材確保、職場環境改善、生産性向上の推進を示しました。それに伴いベタニアホームの今年度の取り組みをご紹介します。多様な人材確保として外国籍人材受け入れ制度利用、働きやすい職場作り(職員の定着率向上)、腰痛予防を図るため、床走



床走行リフト

行リフトや浴室には天井走行リフトを設置。リフト用体重計を足すことで体重測定業務の省力化にもなります。



ないくめを傷を全身皮膚を泡で洗浄機を小さく入

今後は介護テクノロジー導入も検討、介護の質の向上と職員の負担軽減の両立、生産性の向上によって生み出した時間をご利用者様と関わる時間へを目指します。

創立者フロジャク神父様は「世の中や社会生活のために必要なものはただ一つ、それは愛であり親切であります。」と仰っています。社会変化に対応する新しい取り組みの中にもベタニアホームは創立者の精神を変わることなく存続し、ご利用者様、職員を大切に思い、ミッションを果たしていきたいと思えます。

(ベタニアホーム 施設長)

